

資料編

小鹿野町ならではのまちづくりに向けて

第 7 節 町の概況

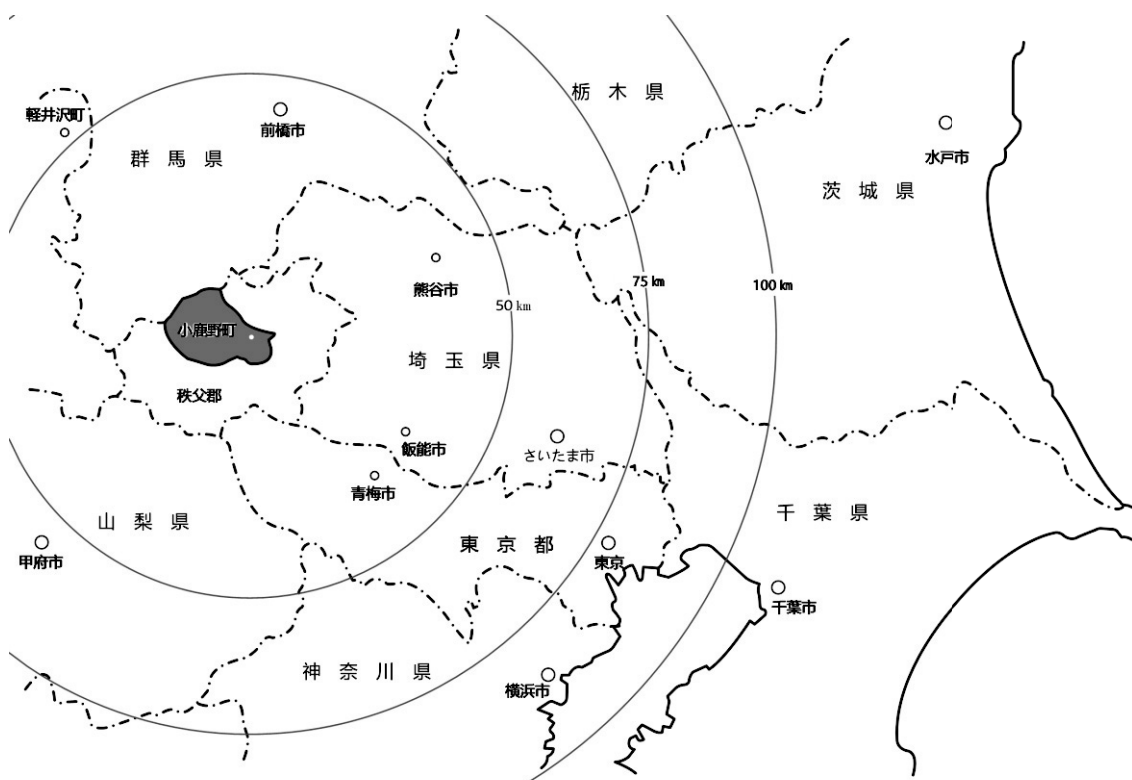
7 埼玉県の西北部に位置し、広大な山岳地域を有するまち

本町は、埼玉県の西北部に位置し、平成 17 年 10 月 1 日の合併により 171.26 km²と、県内の町村では最も広い面積で、広大な山岳地域を有しています。

この地域を地質学上で概観すると、三山地区から西側は中・古生層からなる秩父帯と山中地溝帯が分布し、東側は「ようばけ」に見られるとおり、秩父盆地を構成する新第三紀層になっています。この地層からは、世界的にも珍しい大型ほ乳類の「パレオパラドキシア」や、大型魚類の一種である「チチブサワラ」などの化石が発見されています。

気象条件は、夏は 35 度以上の気温になる反面、冬は零下 10 度前後まで下がり、年間を通じて寒暖の差が著しい地域です。海拔の最高点は両神山頂の 1,723.5m で、小鹿野町役場が 248m となっています。

図 町の位置



2 美しの自然に囲まれたまち

小鹿野町は、秩父多摩甲斐国立公園において秀でた山容を形成する日本百名山の両神山、日本一といわれるセツブンソウの自生地、日本の滝百選の丸神の滝、平成の名水百選の毘沙門水など、およそ現代人の心を和ませてくれる美しい自然と里山の景観や魅力を備えています。

内 容	場 所	指定年月日等
日本観光地百選 日本百名山	両神山 [1,723.5m]	昭和 25 年 10 月 10 日入選 秩父多摩甲斐国立公園
日本の滝百選	丸神の滝 [落差 76m 3段]	平成2年4月 28 日入選 埼玉県自然環境保全地域
森林浴の森日本百選	四阿屋山 [771.6m]	昭和 61 年4月 19 日入選 昭和 54 年に国民休養地指定
平成の名水百選	毘沙門水 [湧水量 約 1000t/日]	平成 20 年6月 25 日 環境省認定
日本の地質百選	ようばけ [高さ 100m、幅 400m]	平成 21 年5月 10 日認定 国指定天然記念物

3 歴史と伝統文化のまち（町の沿革）

■平安時代から記述がのこり、古い歴史を有するまち

小鹿野町の地名の起こりは、約千年前の平安時代に編集された「倭名類聚抄」^{わみょうるいじゅしょう}に「巨香郷」^{こかのごう}の記述があり、古代における地域の成立を垣間見ることができます。

こうした時代から中世にかけては、秩父武士団の台頭がめざましく、この地に根を張った有力な土豪の活躍も知られています。

室町時代には、秩父札所 34 観音霊場が成立し、特に本町に位置する札所 31 番観音院、札所 32 番法性寺は、霊場として優れた自然景観を有しています。

■江戸時代に育まれた独自の文化を継承するまち

江戸時代には、大宮郷（秩父市）に次ぐ規模の「市」^{いち}が形成され、江戸やその他の地域との盛んな交流により独自の文化が育まれてきました。現在も、小鹿野の春祭りに曳きまわされる屋台や笠鉾を始め、農村歌舞伎や神楽などに代表される伝統文化を継承した活動も盛んに行われています。

■山間地域にありながら市場町として繁栄・発展したまち

町の中央部を東西に走る国道 299 号は、江戸時代から武州・上州・信州を結ぶ街道として重要な役割を担い、現在でも地域の主要道路となっています。

本町は、このように山間地域にありながら市場町として繁栄し、武蔵国最西端の産業経済・文化・交通の要所として、また、明治時代以降も養蚕業を中心として近隣の物資が盛んに取引される西秩父地域の中心地として発展してきました。

現在町の中心市街地では、将来にわたって歴史ある街並みを保存・継承するとともに、コンパクトで安心して生活ができ、また、観光来訪者などには、町なか回遊等を楽しんでいただくことのできる様々な整備が進められています。

第2節 人口

1 急激な人口減少と高齢化に直面しているまち

ここ10年は減少のペースが大きい

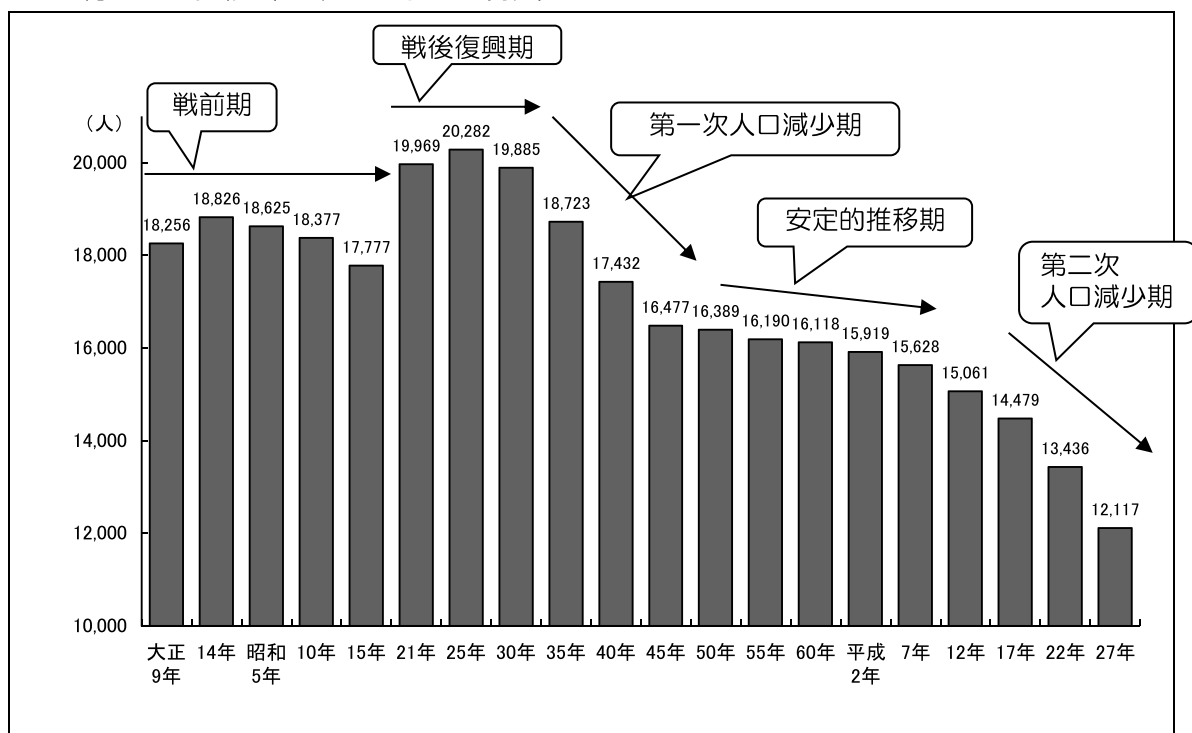
本町の総人口は、昭和20年以前の戦前期は1万7千人ないし1万8千人台で安定的に推移してきましたが、戦後のいわゆるベビーブーム等によって、昭和21年に大きく増加しました。

その後、昭和21年から昭和30年にかけて約2万人で推移していましたが、高度経済成長期に当たる昭和30年代から昭和40年代半ばにかけて大きく減少しました。（第一次人口減少期）

また、昭和40年代後半から平成7年前後までは、ゆるやかな減少傾向にあるものの、約1万6千人前後で安定的に推移してきました。

ところが、平成12年から再び減少傾向に転じており、特に平成17年以降は、5年間で約1,000人減少するなど、最近10年は減少のペースが増えています。（第二次人口減少期）

図 総人口の推移（各年10月1日現在）



資料：国勢調査

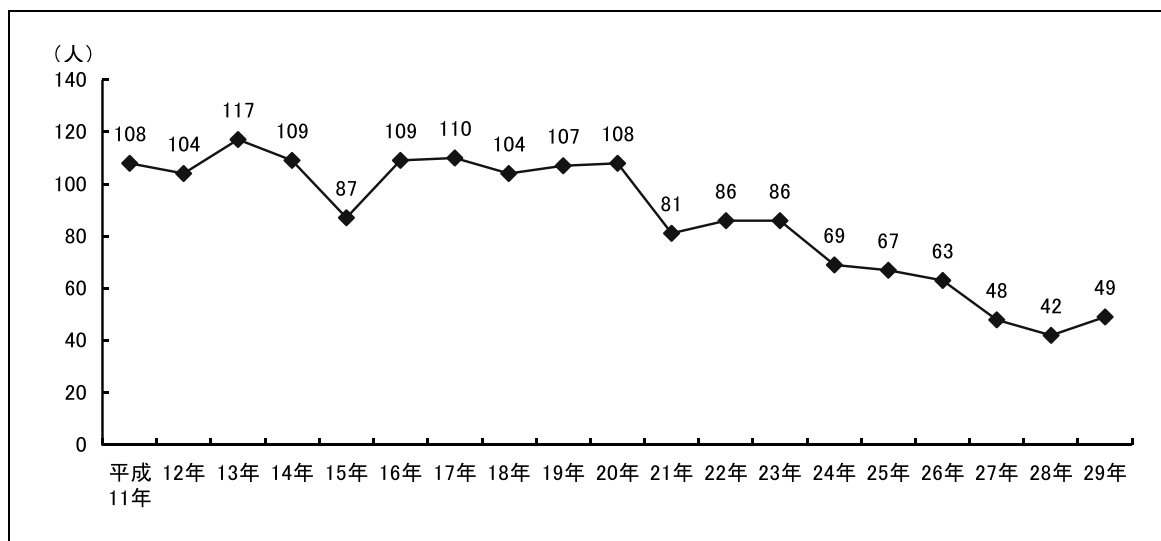
2 少子化による生産年齢人口の減少が進行しているまち

出生数と子育て世帯が減少している。この傾向は今後も続くことが考えられる。

本町の、出生数の推移は減少を続けておりますが、この傾向は今後更に顕著になると考えられます。

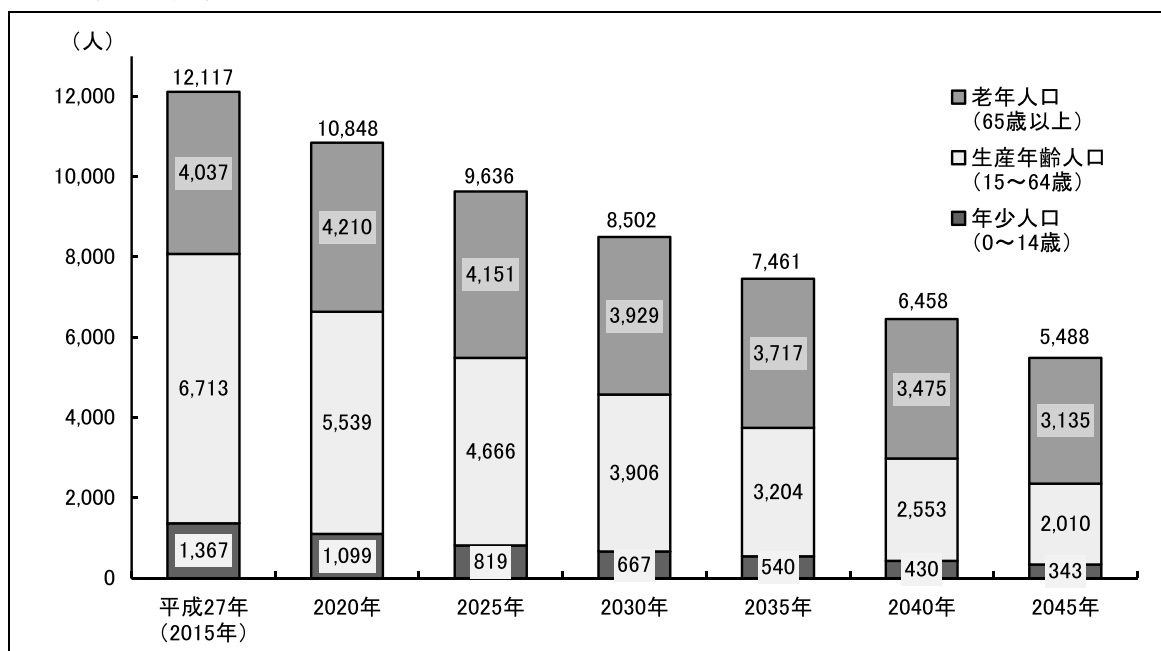
また、人口推計を年齢3階級別にみると、全世代が減少していますが、特に生産年齢人口の減少が大きくなると予想されます。

図 出生数の推移



資料：住民課調

図 年齢3階級別人口の推計



資料：国立社会保障・人口問題研究所の推計人口：2015年は国勢調査による実績値

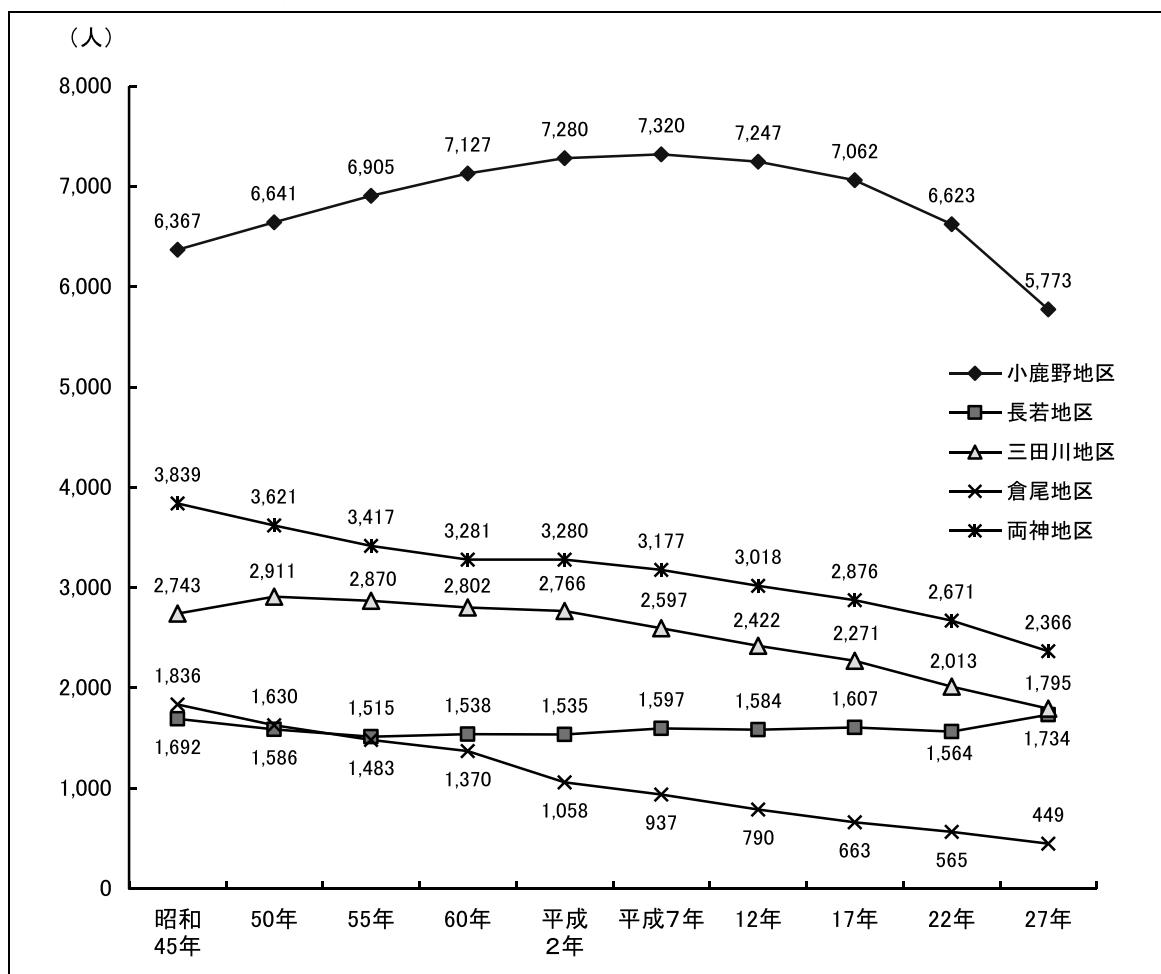
3 山間地域の過疎化が進行しているまち

三田川、倉尾、両神は長期的に人口が減少している

地区別に人口の推移をみると、三田川、倉尾、両神は長期的に人口が減少し、過疎化が進行している様子がうかがえます。

本町は62の行政区がありますが、山間地域では、人口減少や高齢化により、近い将来、行政区として立ち行くことができなくなる区が生じることも予想されます。

図 地区別人口の推移



資料：国勢調査

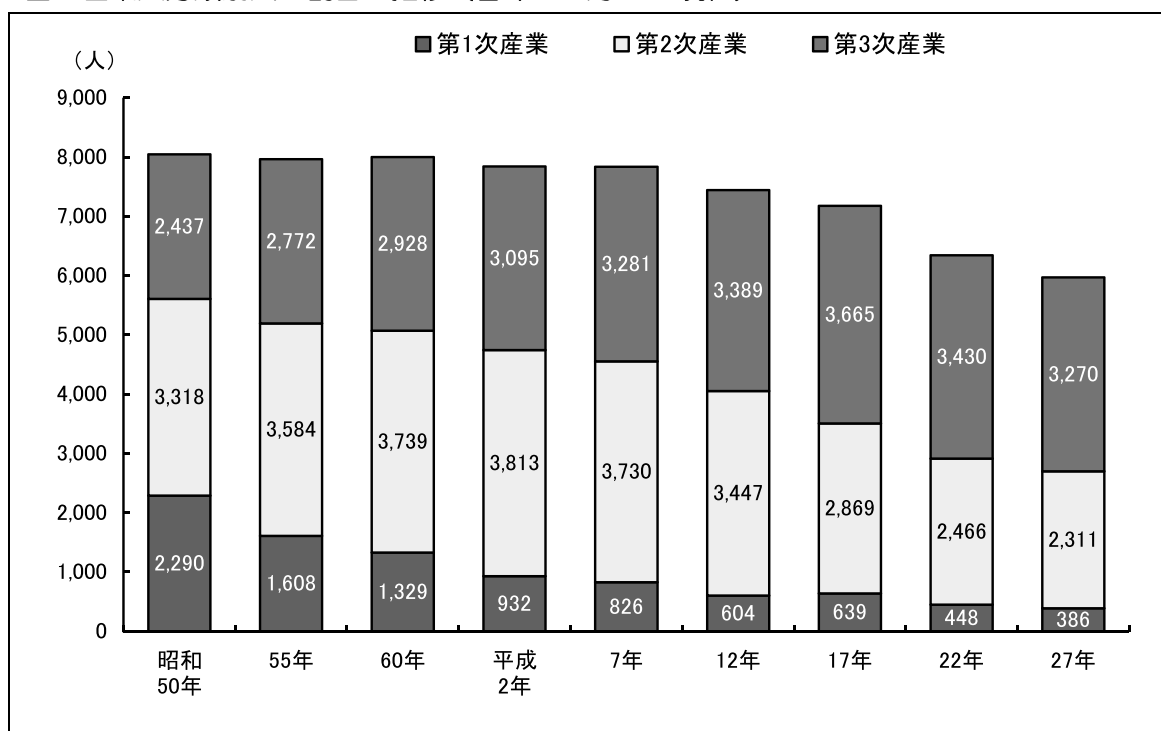
第3節 産業

1 産業大分類別人口

平成17年から平成22年にかけてはすべての産業で減少しているが、構成割合としては第3次産業が増加する傾向がみられる

本町の産業大分類別就業者数の推移をみると、第1次産業は一貫して減少する傾向にあります。これに対し、第2次産業は昭和50年から平成2年にかけてゆるやかに増加してきましたが、平成7年以降減少に転じており、特に平成17年以降は減少幅も大きくなっています。第3次産業は昭和50年から平成17年まで増加傾向にあったものの、平成22年に減少に転じています。その結果、平成17年から平成27年にかけて、すべての産業分類において減少がみられます。

図 産業大分類別人口割合の推移（各年10月1日現在）



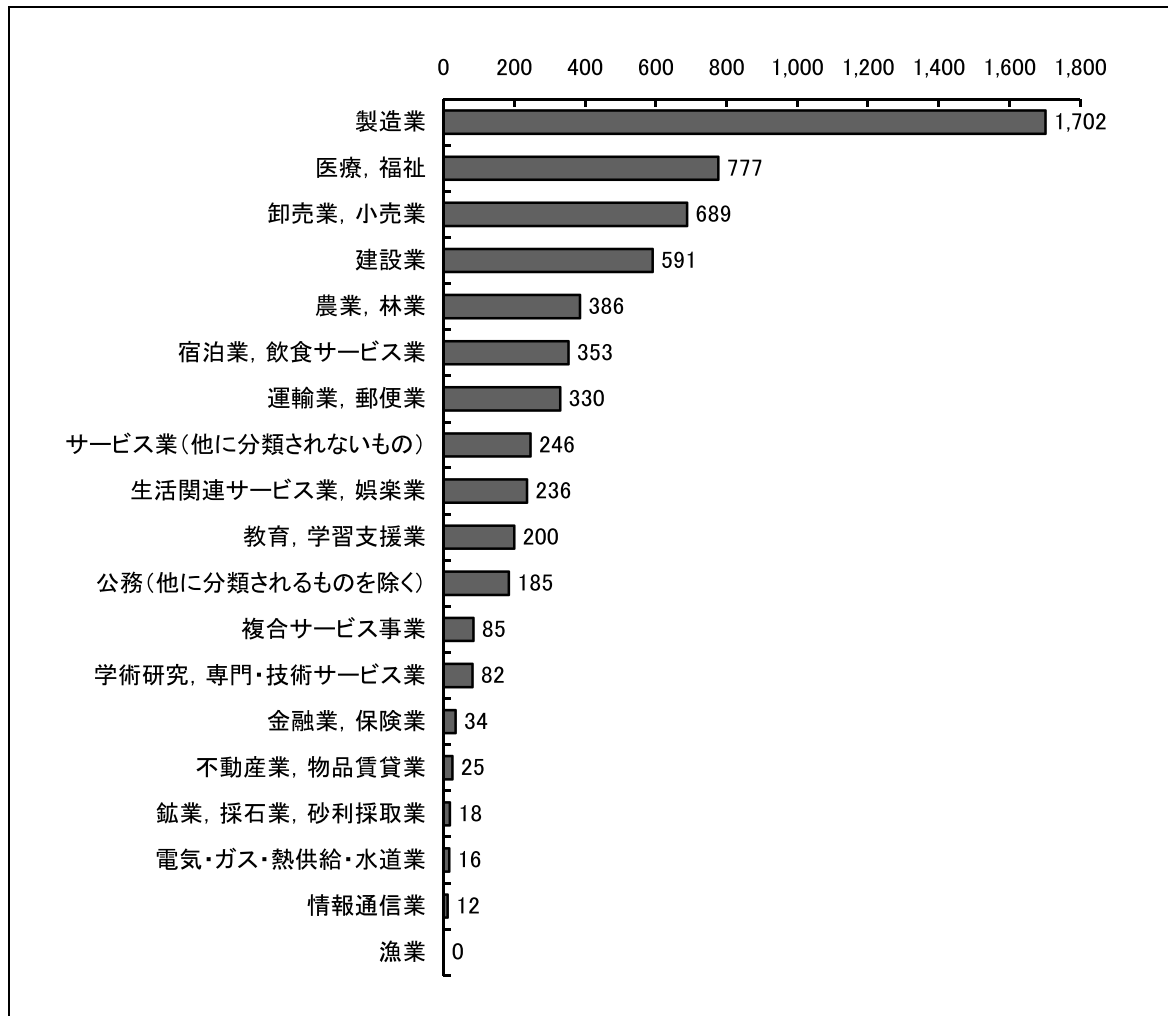
資料：国勢調査

2 製造業などの就業者割合が多いまち

「製造業」が最も多く、「卸売業・小売業」、「医療・福祉」が続いている

平成 27 年（10 月 1 日現在）の産業別人口の状況を見ると、「製造業」が 1,702 人で最も多く、次いで「卸売業・小売業」が 777 人、「医療・福祉」が 777 人で続いています。

図 産業別就業者数（平成 27 年 10 月 1 日現在）



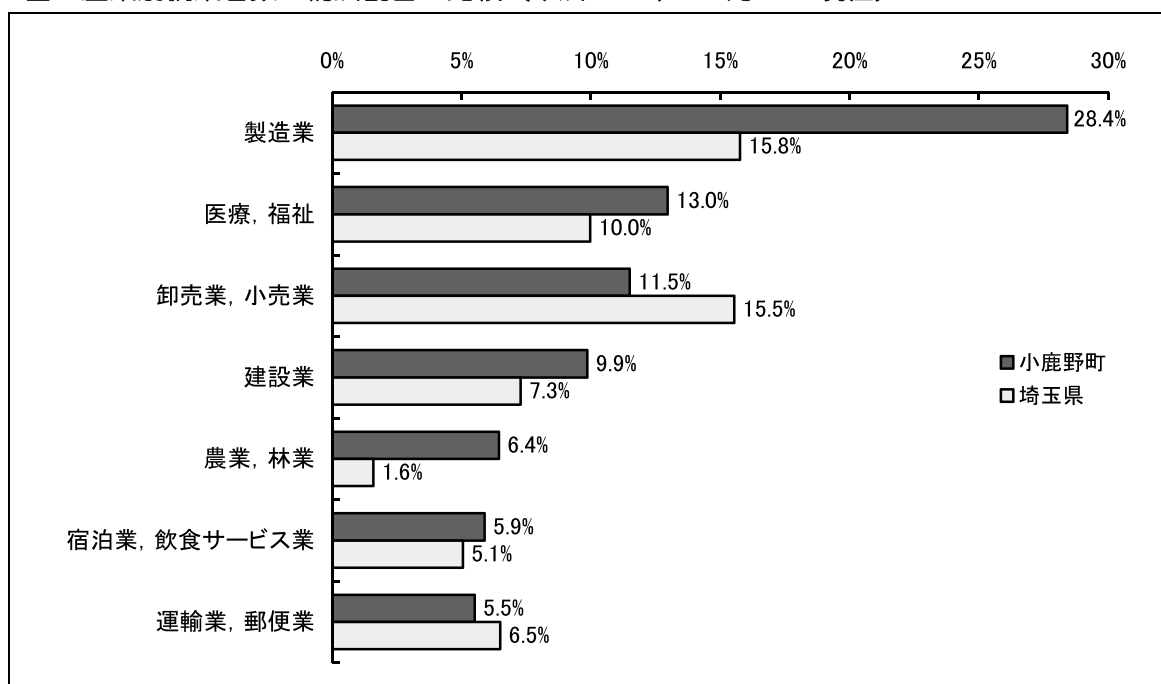
資料：国勢調査

産業別人口割合の状況

埼玉県に比べて「製造業」、「医療・福祉」、「建設業」及び「農業、林業」の割合が高い

平成 27 年（10 月 1 日現在）の産業別人口の割合を埼玉県と比較してみると、「製造業」や「医療・福祉」、「建設業」及び「農業、林業」の割合が高くなっています。

図 産業別就業者数の構成割合の比較（平成 27 年 10 月 1 日現在）



資料：国勢調査

第4節 行財政

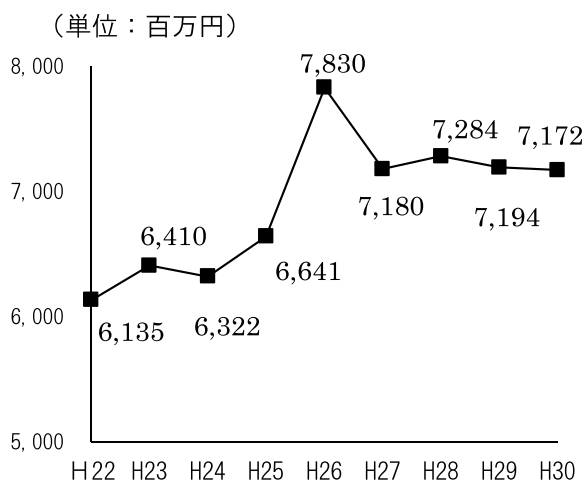
我が国は、国と地方を合わせた長期債務残高が 1,000 兆円を超え、国や地方財政の硬直化、デフレによる企業収益や賃金の圧迫が続いてきました。

最近では、原油高傾向が続き、物価の上昇や消費税引上げによる影響などの懸念材料はあるものの、国際経済の持ち直しや国内需要の堅調な推移しています。

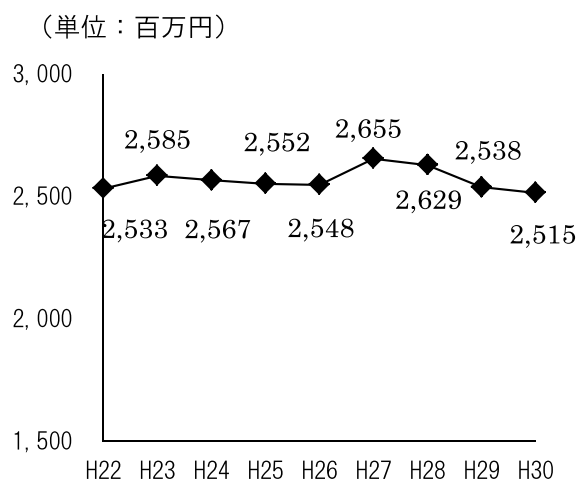
こうした状況下において、本町の財政状況は、合併後 10 年経過をもって合併算定替による地方交付税が段階的に減額されることから、今後とも厳しい財政環境が続くものと予想されます。

町では、計画的な財政運営に基づいて、行政改革大綱と集中改革プランの推進を図るなど、持続可能な財政構造の確立に取り組んでいます。

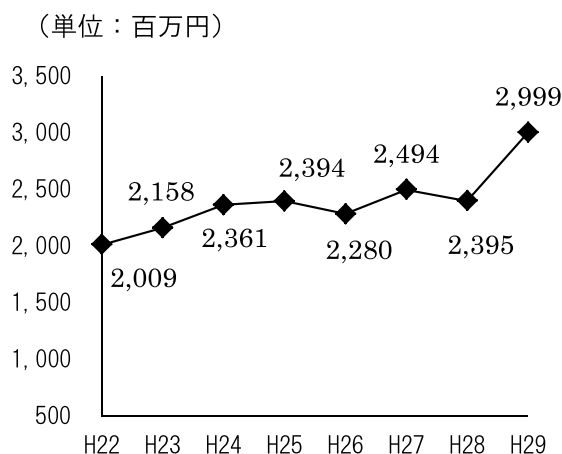
1 一般会計当初予算の推移



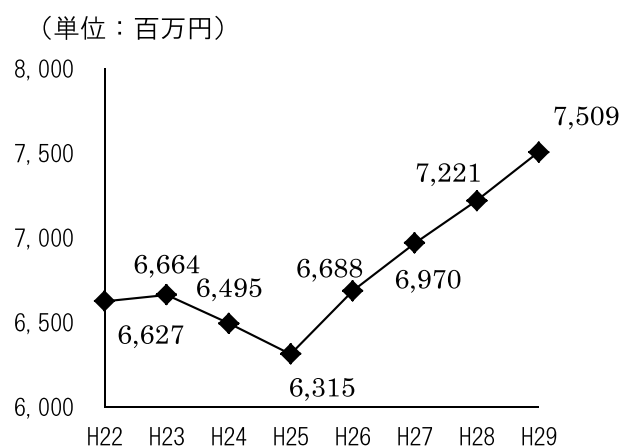
2 普通交付税の推移



3 基金（貯金）残高の推移



4 地方債（借金）残高の推移



第5節 町民の意識（平成29年度住民意識調査の結果）

1 町への愛着の有無

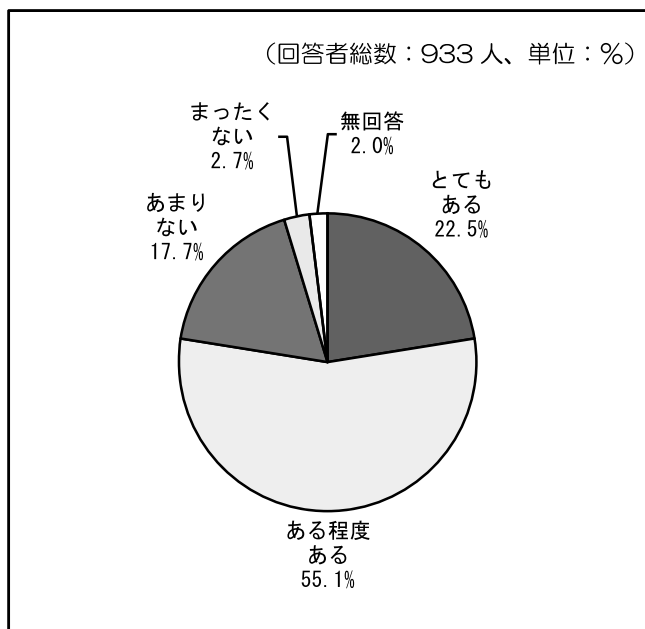
問9 あなたは、小鹿野町に「わがまち」といった愛着（地元愛）をもっていますか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

“ある”が77.6%

町への愛着の有無については、「とてもある」が22.5%、「ある程度ある」が55.1%であり、これらを合わせると77.6%が“ある”と回答しています。

今後は、町への愛着が「ある程度ある」から「とてもある」と思えるような、強い愛着を醸成していくことが課題となります。

図 町への愛着の有無



2 町の良さを満喫しながら暮らしているか

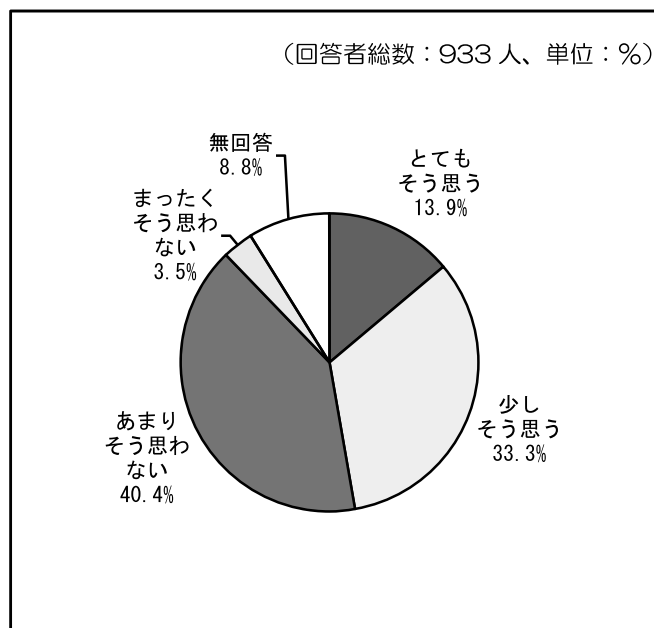
問10 小鹿野町での生活や今後のことについて、あなたのお気持ちに最も近いもの1つに○をつけて下さい。(1) 小鹿野町の良さを満喫しながら暮らしている

町の良さを満喫しながら暮らしている割合は半数弱

町の良さを満喫しながら暮らしているかについては、「とてもそう思う」が13.9%、「少しそう思う」が33.3%であり、これらを合わせると“そう思う”が47.2% (441人) となっています。

今後は、より多くの町民が町の良さを感ぜられるよう努力していくことが求められています。

図 町の良さを満喫しながら暮らしているか



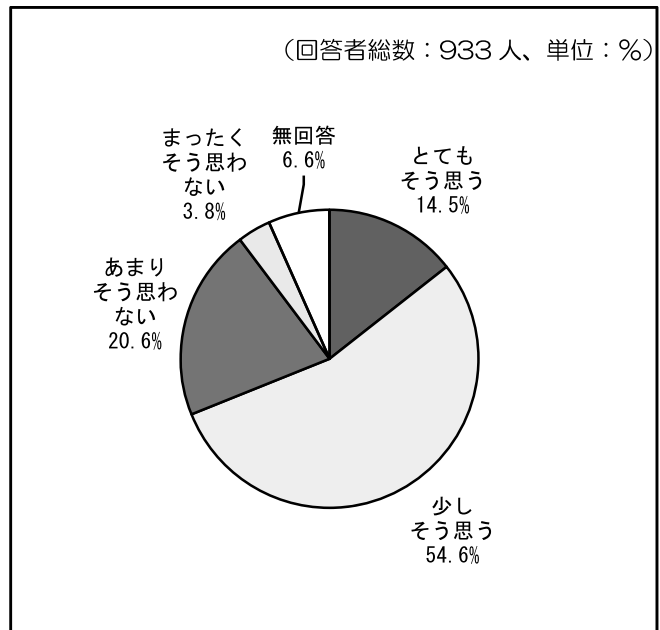
3 町の活性化のための協力への意向

(2) 町の活性化のために協力できることがあればしてみたい

町民の7割が協力への移行を示しています

町の活性化のための協力への意向については、「とてもそう思う」が14.5%、「少しそう思う」が54.6%であり、これらを合わせると69.1%が“そう思う”と回答しています。

図 町の活性化のための協力への意向

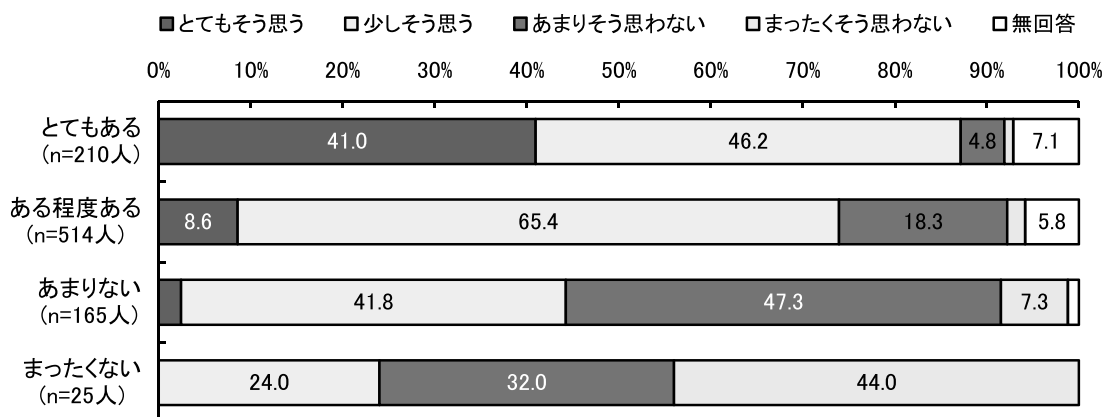


【愛着心の有無別】

これを愛着心の有無別にみると、愛着心が「とてもある」人のうち4割が活性化のための協力についてとても「そう思う」と回答しています。

今後、愛着心が「とてもある」人を増やすことによって、まちづくりに協力する人材を育成していくことが課題となります。

図 愛着心の有無（問9）別にみた町の活性化のための協力への意向



4 生活環境や取組への評価

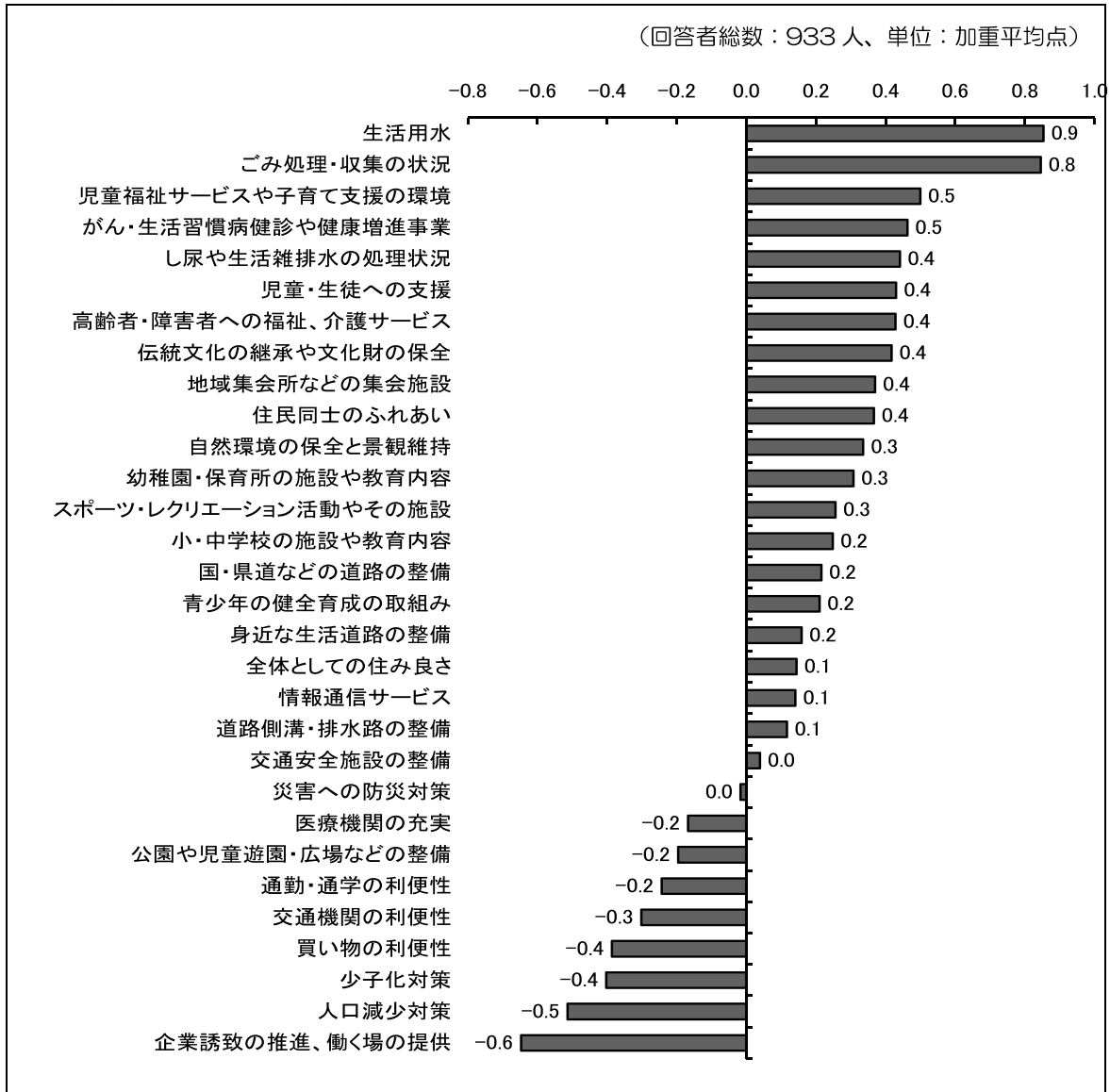
問 12 小鹿野町の現在の生活環境や取組への評価について、どのように感じていますか。次の各項目について、それぞれあてはまる番号 1 つに○を付けてください。

「生活用水」や「ごみ処理・収集の状況」などの評価が高い

生活環境や取組への評価について、加重平均値*を求めて比較したところ、評価の高い項目は「生活用水」や「ごみ処理・収集の状況」が挙げられています。

一方、評価の低い項目としては「買い物の利便性」や「少子化対策」、「人口減少対策」、「企業誘致の推進、働く場の提供」などが挙げられています。

■生活環境や取組への評価（加重平均値による比較）



資料：「小鹿野町まちづくりアンケート」調査結果報告書（平成 29 年度）

* 「加重平均値」とは、項目間の比較を行いやすくするため、「満足」に+2点、「どちらかと言えば満足」に+1点、「どちらでもない」に0点、「どちらかと言えば不満」に-1点、「不満」に-2点といった重みを加えて算出した平均値のことです。

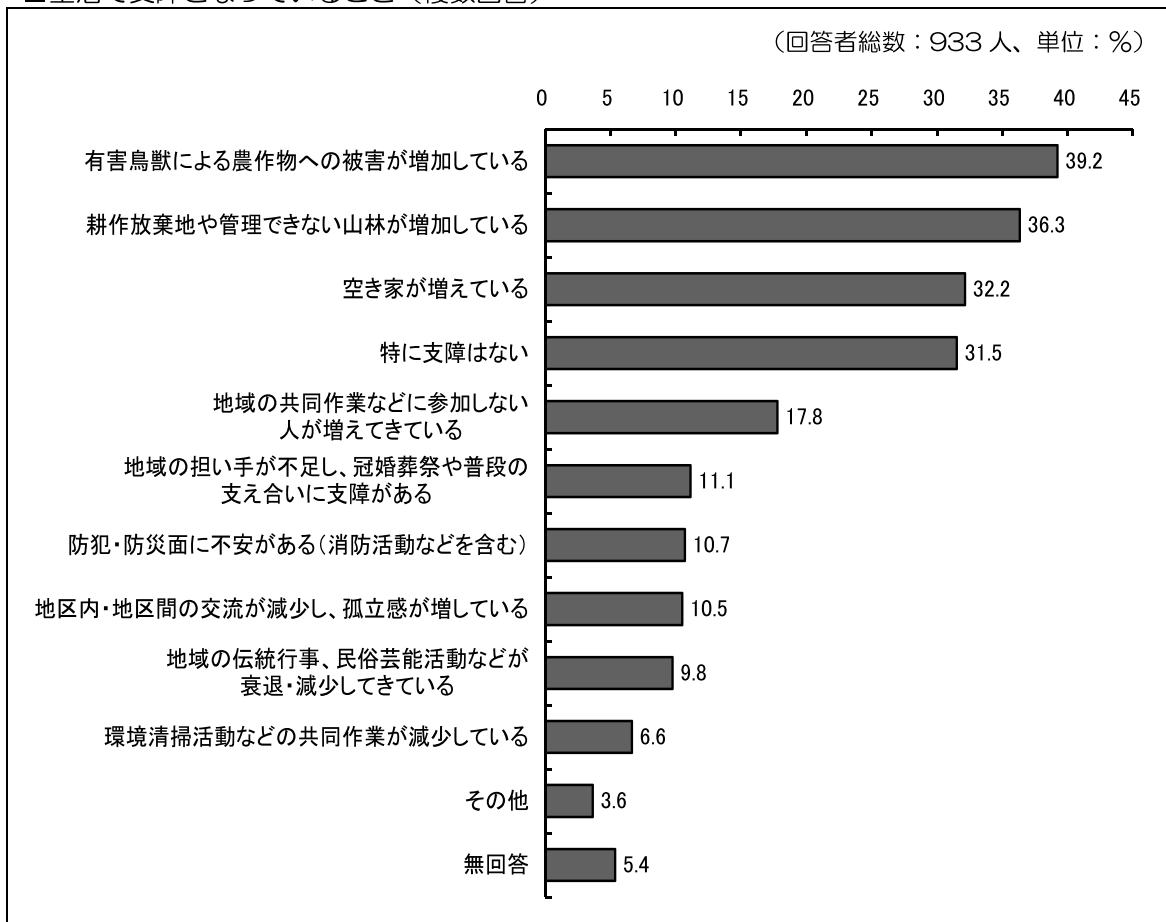
5 生活で支障となっていること

問8 あなたの住まいになっている地区では、住民生活に何か支障がでていますか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

「有害鳥獣による農作物への被害」や「耕作放棄地や管理できない山林が増加」が多い

生活で支障となっていることについては、「有害鳥獣による農作物への被害が増加している」が39.2%で最も多く、次いで「耕作放棄地や管理できない山林が増加している」が36.3%、「空き家が増えている」が32.2%が続いています。

■生活で支障となっていること（複数回答）



資料：「小鹿野町まちづくりアンケート」調査結果報告書（平成29年度）

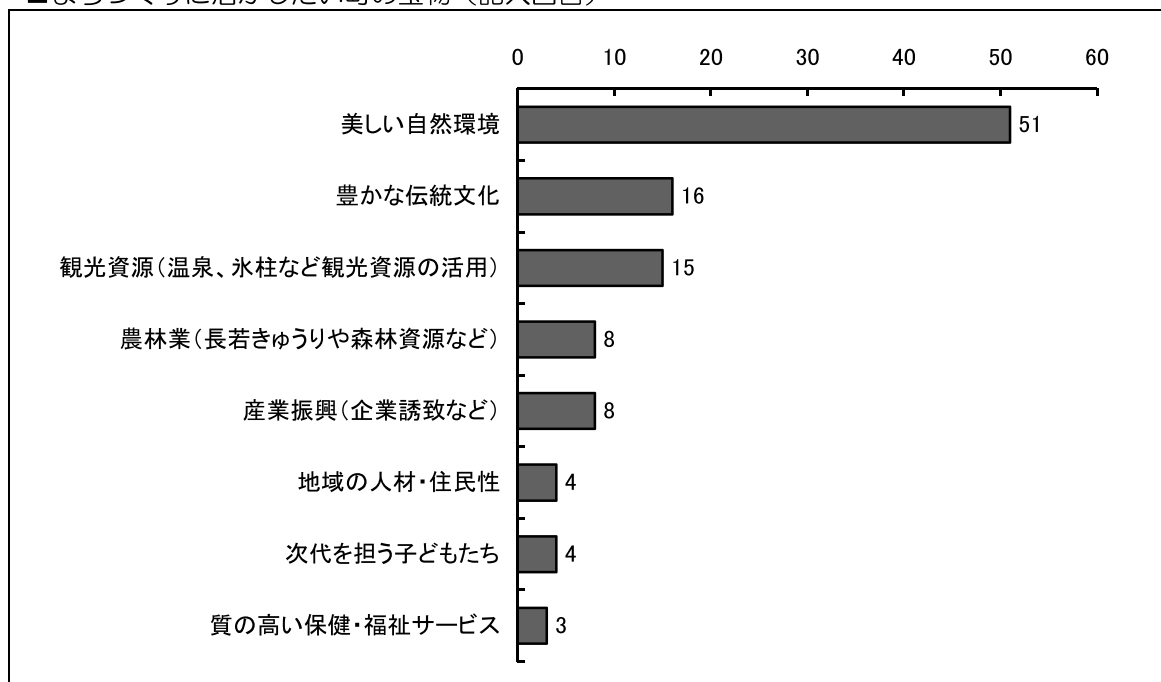
第 6 節 まちづくりに活かしたい町の宝物

「美しい自然環境」や「豊かな伝統文化」、「観光資源」、「農林業」など

これからの 10 年間は地域の存続が問われる 10 年となります。まちの課題に対し、長所を活かしながら対応していくことが大切です。

平成 27 年に実施したアンケート調査では、有効活用できる町の資源について聞いたところ、「美しい自然環境」が最も多く、次いで「豊かな伝統文化」や「観光資源」、「農林業」と続いています。

■まちづくりに活かしたい町の宝物（記入回答）



資料：「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関するアンケート調査結果報告書（平成 27 年度）

第7節 各課所計画一覧

本計画の他、各課所の主な個別計画は以下のとおりです。

小鹿野町地域防災計画
小鹿野町男女共同参画計画
小鹿野町特定事業主行動計画
小鹿野町公共施設等総合管理計画
小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略
小鹿野町過疎地域自立促進計画
地域再生計画
辺地に係る総合整備計画
新町建設計画
子ども・子育て支援事業計画
小鹿野町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）
小鹿野町一般廃棄物処理計画
小鹿野町生活排水処理基本計画
小鹿野町総合保健福祉計画
小鹿野町障害者計画及び小鹿野町障害福祉計画・小鹿野町障害児福祉計画
小鹿野町国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）
小鹿野町国民健康保険特定健康診査等実施計画
小鹿野町地域福祉計画
いきいき小鹿野健康21計画
小鹿野町いのち支える自殺対策計画
小鹿野町新型インフルエンザ等対策行動計画
小鹿野町山村振興計画
小鹿野町公営住宅等長寿命化計画
小鹿野町建築物耐震改修促進計画
小鹿野町橋梁長寿命化修繕計画
小鹿野町教育振興基本計画
小鹿野町立図書館運営計画
小鹿野町子ども読書活動推進計画

第8節 第2次小鹿野町総合計画策定にかかる諮問・答申

○基本構想諮問書

小鹿総政第379号
平成31年1月8日

小鹿野町総合振興計画審議会
会長 本間 信 様

小鹿野町長 森 真太郎

第2次小鹿野町総合振興計画基本構想（案）について（諮問）

小鹿野町総合振興計画審議会条例第2条第1項の規定に基づき、下記の件について貴審議会の意見を求めます。

記

- 1 第2次小鹿野町総合振興計画基本構想（案）

○基本構想答申書

平成31年2月19日

小鹿野町長 森 真太郎 様

小鹿野町総合振興計画審議会
会長 本間 信

第2次小鹿野町総合振興計画基本構想（案）について（答申）

平成31年1月8日付け小鹿総政第379号で諮問のあった下記の件について、本審議会は慎重に審議を行った結果、別紙のとおり答申します。

記

- 1 第2次小鹿野町総合振興計画基本構想（案）

○基本構想答申内容

答 申 書

少子化に伴う人口減少や急速に変化する社会情勢の中、小鹿野町は、厳しい財政事情のもとで、時代や土地柄に合ったまちづくりが進められてきました。

総合振興計画の基本構想は、このような状況下で、町が目指すべき将来像を実現するために、諸施策が的確に立案され、正しく遂行されていくことができるよう、その方向性を指し示すことが重要です。

本審議会は、慎重に審議を行った結果、第2次小鹿野町総合振興計画基本構想（案）については、今後の小鹿野町の進むべき方向が示されており、その内容は概ね妥当なものであると判断いたします。

なお、次の意見、要望について配慮され、計画の実現に向けて尽力されることを望みます。

■意見、要望

- 1 自治力の向上において、地域の高齢者や女性による組織は大きな可能性を秘めているため、まちづくりにおいての積極的な連携を望みます。
- 2 住民生活の向上や産業振興を図り、災害時などに備える意味からも、本町と秩父市を結ぶ長尾根のトンネル化を望みます。
- 3 地域包括ケアシステムの更なる充実のため、子どもから高齢者まで全世代を対象とし、関係機関と連携を図ることで、言わばケアタウンとしての機能拡充を望みます。
- 4 農林業をはじめとした各産業においては、民間活力の導入や官民連携による新たな取組の推進と既存事業の改善を望みます。
- 5 人口減少を抑制するための最重要施策として、少子化対策に重点を置き、事業に取り組まれることを望みます。
- 6 基本構想実現のために、町長による大胆な施策の決断・実行を望みます。

○前期基本計画諮問書

小鹿総政第380号
平成31年1月8日

小鹿野町総合振興計画審議会
会長 本間 信 様

小鹿野町長 森 真太郎

第2次小鹿野町総合振興計画前期基本計画（案）について（諮問）

小鹿野町総合振興計画審議会条例第2条第1項の規定に基づき、下記の件について貴審議会の意見を求めます。

記

- 1 第2次小鹿野町総合振興計画前期基本計画（案）

○前期基本計画答申書

平成31年3月29日

小鹿野町長 森 真太郎 様

小鹿野町総合振興計画審議会
会長 本間 信

第2次小鹿野町総合振興計画前期基本計画（案）について（答申）

平成31年1月8日付け小鹿総政第380号で諮問のあった下記の件について、本審議会は慎重に審議を行った結果、別紙のとおり答申します。

記

- 1 第2次小鹿野町総合振興計画前期基本計画（案）

○前期基本計画答申内容

答 申 書

前期基本計画は、基本構想が描くまちづくりを実現するための施策の方向性が的確に定められていることが重要です。

本審議会は、慎重に審議を行った結果、第2次小鹿野町総合振興計画前期基本計画（案）については、基本構想に基づいた施策の方向性が的確に示されており、その内容は概ね妥当なものであると判断いたします。

なお、次の意見、要望について配慮され、計画の実現に向けて尽力されることを望みます。

■意見、要望

- 1 第2次小鹿野町総合振興計画に課せられた命題は、本町の直面する人口減少・出生数の減少を如何に克服するかということに帰結します。従って、その前期基本計画においては、出生数の増加及び移住・定住促進に有効な施策の優先的実行を望みます。
- 2 若い世代が本町の魅力を知り、郷土愛を育むことで、末永く住み続けることができるような取り組みの推進を望みます。
- 3 子どもから高齢者まですべての世代が活躍し、地域ぐるみで町民が共に支え合うまちづくりの実現を望みます。
- 4 町内唯一の公立高校である小鹿野高等学校の存続に向け、地域や町が一体となり高校の魅力化を推進し、多くの生徒から選ばれる学校となるよう支援する体制を望みます。
- 5 前期基本計画の指標の達成状況を把握し公表するとともに、財政状況や社会情勢の変化などを総合的に勘案した、計画的な推進を望みます。
- 6 本計画の趣旨や内容をわかりやすく町民に周知するとともに、広く町民の理解と協力を得ながら、町民と行政が一体となった協働によるまちづくりが推進されることを望みます。

第9節 策定体制及び策定経過

1 策定経過

年 月 日		事 項	主な検討内容等
平成29年	5月1日	総合振興計画策定委員会(第1回)	策定方針・策定スケジュール・まちづくりアンケートについて
	7月26日	策定委員会作業部会(第1回)	策定スケジュール・まちづくりアンケートについて
	8月10日 ～8月31日	まちづくりアンケートの実施	無作為抽出2,000人に郵送
	8月14日	小鹿野町総合振興計画推進委員会 規程制定	
平成30年	1月16日	総合振興計画審議会(第1回)	策定スケジュール・まちづくりアンケートについて
	4月10日	まちづくりアンケート結果の公表	庁舎およびホームページにて公表
	6月19日	総合振興計画推進委員会(第1回)	基本骨子案・策定スケジュールについて
	8月2日	総合振興計画審議会(第1回)	基本骨子案・策定スケジュールについて
	8月6日	推進委員会作業部会(第1回)	基本骨子案・策定スケジュール・ヒアリングについて
	8月30日 ～9月11日	各課所ヒアリング実施	
	12月13日	推進委員会作業部会(第2回)	基本構想案・前期基本計画案について
	12月27日	総合振興計画推進委員会(第2回)	基本構想案・前期基本計画案について

平成31年	1月8日	総合振興計画審議会（第2回）	基本構想案・前期基本計画案について
	1月8日	基本構想および前期基本計画について町長から総合振興計画審議会に諮問	
	1月15日 ～2月15日	基本構想パブリックコメント実施	
	1月30日	総合振興計画推進委員会（第3回）	基本構想案・前期基本計画案について
	1月31日	議会全員協議会	基本構想案を協議
	2月18日	総合振興計画審議会（第3回）	基本構想答申案・前期基本計画案について
	2月19日	基本構想について総合振興計画審議会から町長に答申	
	2月27日 ～3月28日	前期基本計画パブリックコメント実施	
	3月5日	平成31年3月定例町議会において「議案第27号 第2次小鹿野町総合振興計画基本構想について」を上程	
	3月7日	平成31年3月定例町議会において同案を可決	
	3月25日	総合振興計画推進委員会（第4回）	前期基本計画案について
	3月29日	総合振興計画審議会（第4回）	前期基本計画答申案について
	3月29日	前期基本計画について総合振興計画審議会から町長に答申	

2 策定体制

○小鹿野町総合振興計画審議会委員

No.	区 分	氏 名	備 考
1	農業に関し知識経験を有する者	黒 沢 裕 幸	
2		黒 田 秀 夫	
3	商工業に関し知識経験を有する者	中 野 晃	
4		猪 野 茂	
5	社会福祉に関し知識経験を有する者	多比良 キヨ子	
6		坂 本 かつみ	
7	保健及び医療に関し知識経験を有する者	本 間 信	会長
8		原 口 章 子	会長代理
9	教育及び文化一般に関し知識経験を有する者	南 清 孝	
10		浅 香 清	
11	町長が必要と認める者	坂 本 好 司	
12		渡 部 幸 夫	
13		大 簀 徹	
14		塩 田 浩 司	
15		坂 本 義 明	

○小鹿野町総合振興計画推進委員会委員

No.	役名	職名	氏名	備考
1	委員長	副町長	長谷川 伸一	
2	委員	教育長	笠原 浩	
3	委員	総務課長	高橋 俊行	
4	委員	技監	岡村 正男	
5	委員	税務課長	守屋 明美	
6	委員	住民課長	黒沢 功	
7	委員	会計課長	東 圭子	
8	委員	衛生課長	神田 進	
9	委員	福祉課長	新井 保子	
10	委員	保健課長	分須 亮太郎	
11	委員	おもてなし課長	茂木 寅二	
12	委員	産業振興課長	石田 伸二	
13	委員	建設課長	新井 昇	
14	委員	議会事務局長	近藤 勝英	
15	委員	学校教育課長	磯田 定志	
16	委員	社会教育課長	黒沢 義則	
17	委員	小鹿野中央病院事務長	黒澤 平太郎	
18	委員	総合政策課長	浅見 良雄	事務局兼務

事務局	総合政策課長	浅見 良雄	委員兼務
	総合政策課主幹	南 徳秀	
	総合政策課主事	岩井 亮	
	総合政策課主事	山中 理都子	
	総合政策課主事補	山岸 勇輝	

第2次小鹿野町総合振興計画

****2019~2028****

～持続可能で幸せなまちづくりに向けた十年を築くために～

平成31（2019）年3月発行

小鹿野町

編集 小鹿野町総合政策課

〒368-0192 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野89番地

電話：0494-75-1221(代表)

ファックス：0494-75-2819

メール：machi@town.ogano.lg.jp
